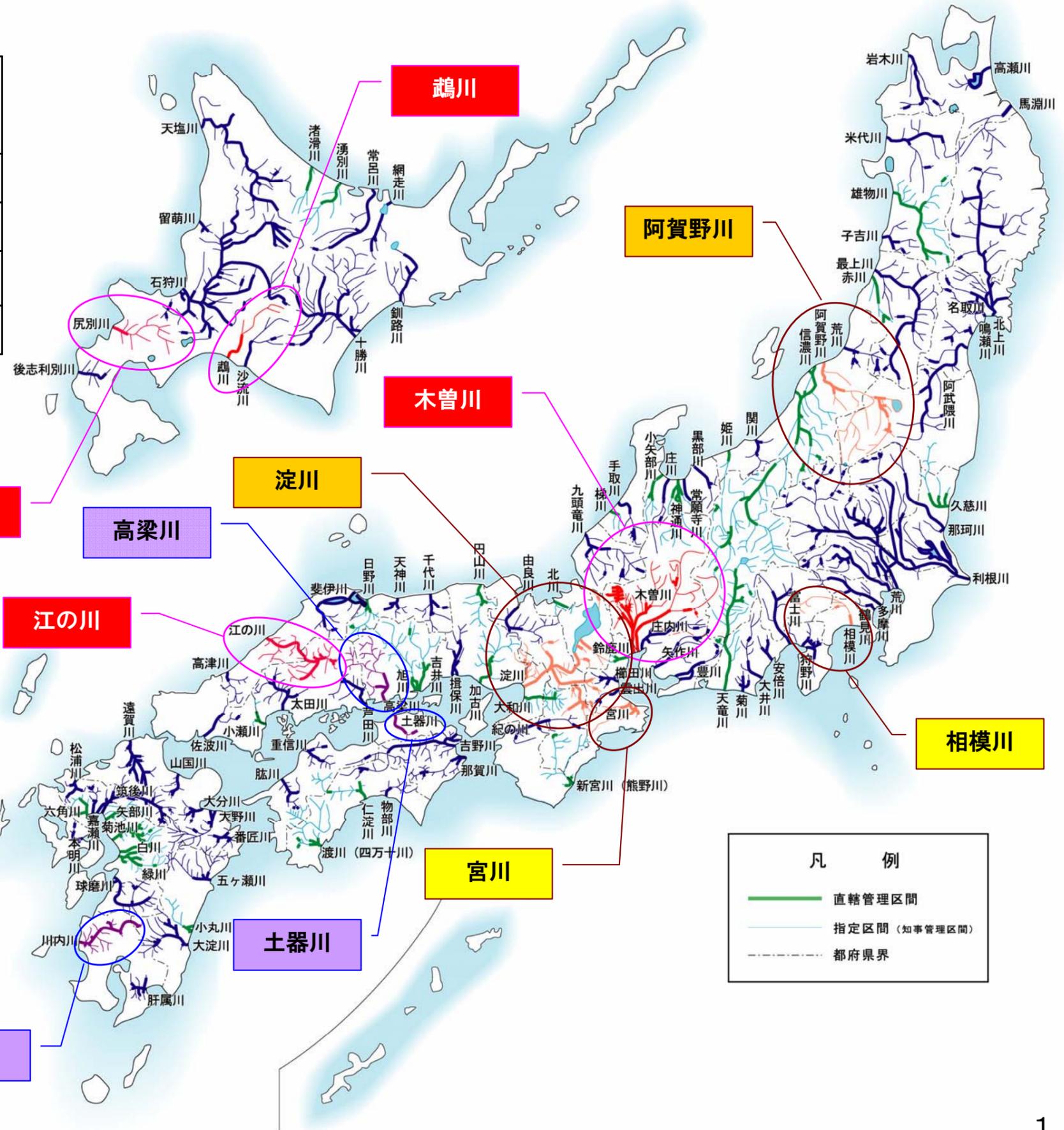


今後の河川整備基本方針の策定について

資料6

新たに基本方針検討小委員会で審議を開始する水系

水系名	流域面積 (km ²)	幹川流路延長 (km)	流域内人口 (千人)	想定氾濫区域内人口 (千人)	流域の主な道県
尻別川	1,640	126	39	6	北海道
鶴川	1,270	135	13	5	北海道
木曾川	9,100	229	1,925	2,605	愛知県、長野県、岐阜県 滋賀県、三重県
江の川	3,900	194	202	49	島根県、広島県



	本日の河川分科会での審議水系	3水系
	新たに基本方針検討小委員会で審議を開始する水系	4水系
	基本方針検討小委員会で審議中の水系	4水系
	河川整備基本方針策定済み水系	70水系

凡例	
	直轄管理区間
	指定区間 (知事管理区間)
	都府県界

尻別川水系

流域及び氾濫域の諸元

流域面積 : 1,640km²
 幹川流路延長 : 126km
 流域内人口 : 約3.9万人
 主な町村 : 蘭越町、倶知安町、喜茂別町
 想定氾濫区域面積 : 56.2km²
 想定氾濫区域内人口 : 約6,400人
 想定氾濫区域内資産額 : 約950億円

工事実施基本計画

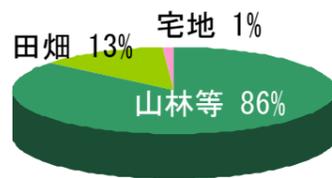
対象降雨量 : 250mm/2日(1/100)
 基本高水のピーク流量 : 3,300m³/s(名駒地点)
 計画高水流量 : 3,000m³/s(名駒地点)

地域・河川特性及び降水量

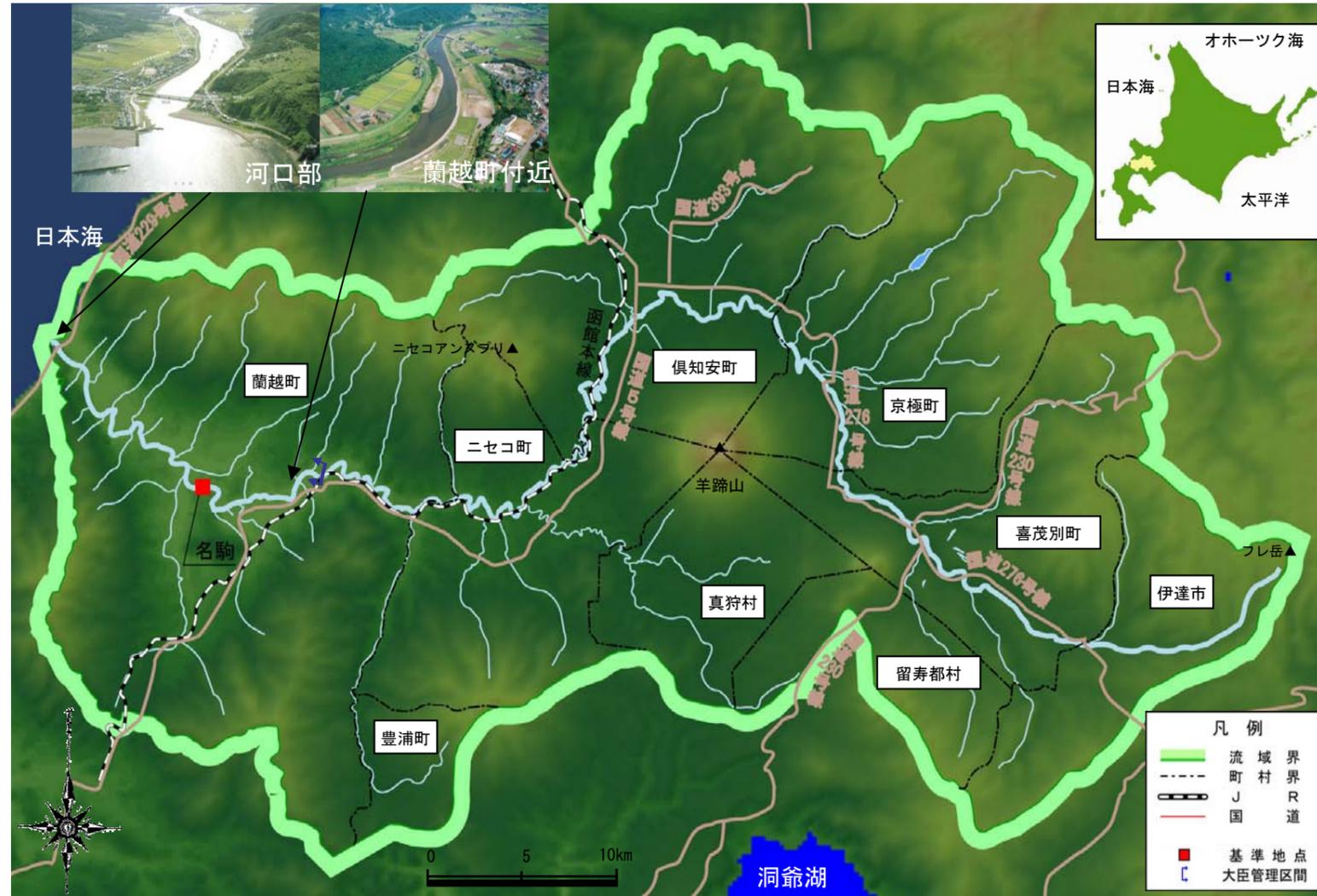
■羊蹄山の北側を半周し、ニセコ連山の麓の狭窄部を南下し、下流部では平地を蛇行しながら流下。
 ■年間降水量は約1,500mm

土地利用状況

■流域の約86%が山林等、約13%が田畑、宅地が約1%
 ■人口資産は各町村の低平地に集中



- 昭和36年、37年、50年、56年に大きな洪水が発生。
- 流域は馬鈴薯などの農業地帯として発展。近年はカヌーやラフティング、釣りなど、豊かな自然と優れた景観を利用した観光産業が盛ん。
- 水質が良好で平成11~14年、16~17年に水質ランキング1位。
- 近年、アジア・オセアニアからの観光客が多く訪れている。



治水対策

■本川3箇所にて捷水路工事を実施
 初田捷水路(昭和40年通水)



■洪水氾濫の防御及び周辺土地利用のため、堤防整備、河道掘削工事、水衝部対策のため低水路護岸等を実施



下流部浚渫



築堤

主な洪水被害

■近年、洪水被害が頻発

洪水名	名駒地点実績流量(m ³ /s)	名駒地点流域平均2日雨量(mm)	浸水被害戸数(戸)	浸水面積(ha)
昭和36年7月	1,247	190.1	1,991	7,051
昭和37年8月	1,366	232.8	1,994	13,850
昭和50年8月下旬	1,493	189.2	408	3,508
昭和56年8月下旬	1,463	181.0	321	4,070
平成11年8月	1,385	111.9	8	315



昭和50年洪水 米子築堤破堤状況



昭和56年洪水 冷水地区冠水状況



平成11年洪水 人別地区・初田地区内水氾濫



昭和37年洪水 最下流部

河川環境

■ヤナギ林を中心とした河畔林を形成。下流域はアユ・サケ・サクラマスが生息
 ■羊蹄山と一体となった景観を有し、公園利用、水面利用が盛ん



カヌー(蘭越町)



ラフティング(京極町)



尻別川せせらぎまつり



羊蹄山と河畔林(倶知安町)



アユ釣り



パークゴルフ場

鷓川水系

流域及び氾濫域の諸元

流域面積	: 1,270km ²
幹川流路延長	: 135km
流域内人口	: 約1.3万人
主な町村	: むかわ町、占冠村
想定氾濫区域面積	: 約56.5km ²
想定氾濫区域内人口	: 約4,600人
想定氾濫区域内資産額	: 約710億円

工事实施基本計画

対象洪水	: 実績最大（大正11年）
基本高水のピーク流量	: 3,600m ³ /s（鷓川地点）
計画高水流量	: 3,600m ³ /s（鷓川地点）

地域・河川特性及び降水量

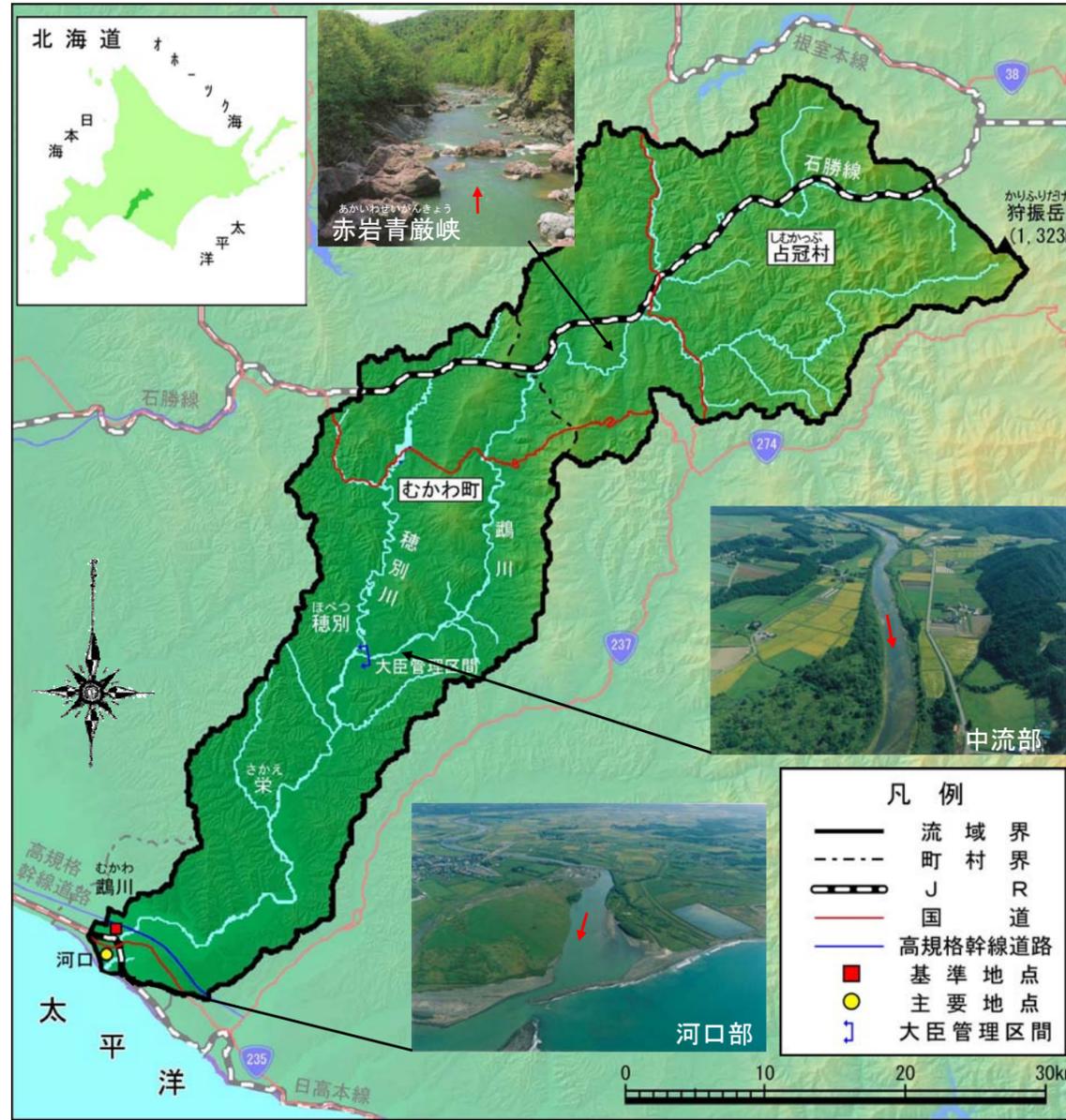
- 上流部は、赤岩青巖峽に代表される渓流を流れ、中流部は、函状溪谷から河岸段丘に変わり、比較的開けた下流部に続く。
- 年間降水量は上流域約1,400mm、下流域約1,100mm

土地利用状況

- 流域の約83%が山林、約5%が農地、宅地等の市街地・その他が約12%
- 人口資産は下流のむかわ町市街地に集中



- 平成4年、13年、15年、18年と近年大きな出水が発生
- 下流部には北海道の太平洋沿岸のみに生息し北海道レッドデータブックの地域個体群に指定されているシシャモの自然産卵床がみられる
- 河口部の干潟はシギ・チドリ類などの渡り鳥の重要な中継地となっている

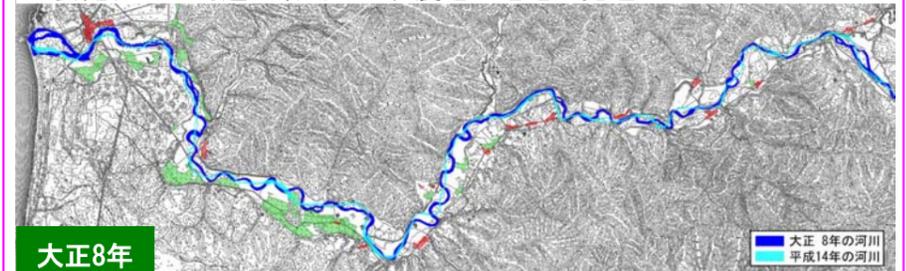


治水対策

- 洪水氾濫の防御を目的として、堤防整備、低水路護岸、河道掘削工事等の治水対策を実施



- 安定化した河道の沿川では、農地や宅地が発達



河川環境



- 鷓川は北海道の太平洋側のみに生息するシシャモが遡上し、地域の特産品となっている他、河口干潟はシギ・チドリ類のシベリアとオーストラリア等を結ぶ中継地として利用されるなど、豊かな自然環境に恵まれている。
- 河口干潟については、かつて広範囲に広がっていたが、近年、海岸浸食により、失われてきており、地域と連携しその保全と再生に努めている。

主な洪水被害

- 近年、洪水被害が頻発

洪水名	鷓川地点 流域平均雨量 (mm/24hr)	鷓川地点 流量 (m ³ /s)	浸水被害 戸数(戸)	農地被害 面積(ha)
平成4年8月	188.1	2,991	145	約109
平成13年9月	213.7	2,773	3	—
平成15年8月	197.9	2,588	2	約15
平成18年8月	247.8	2,358	73	約65

※平成18年は暫定値、速報値

木曾川水系

流域及び氾濫域の諸元

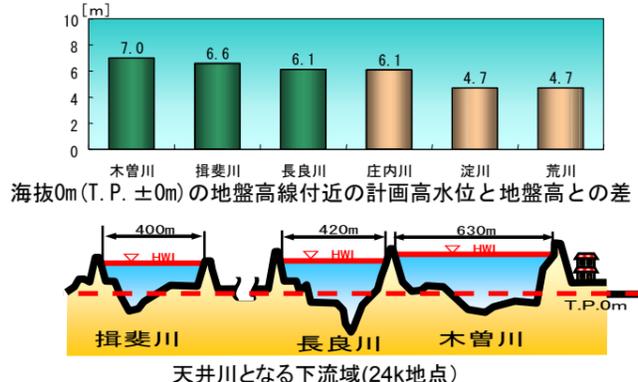
- 流域面積 : 9,100km²
- 幹川流路延長 : 木曾川 229km
長良川 166km
揖斐川 121km
- 流域内人口 : 190万人
- 主な市町村 : 岐阜市、大垣市、桑名市
- 想定氾濫区域面積 : 1,206km²
- 想定氾濫区域内人口 : 260万人
- 想定氾濫区域内資産額 : 38兆円

工事実施基本計画

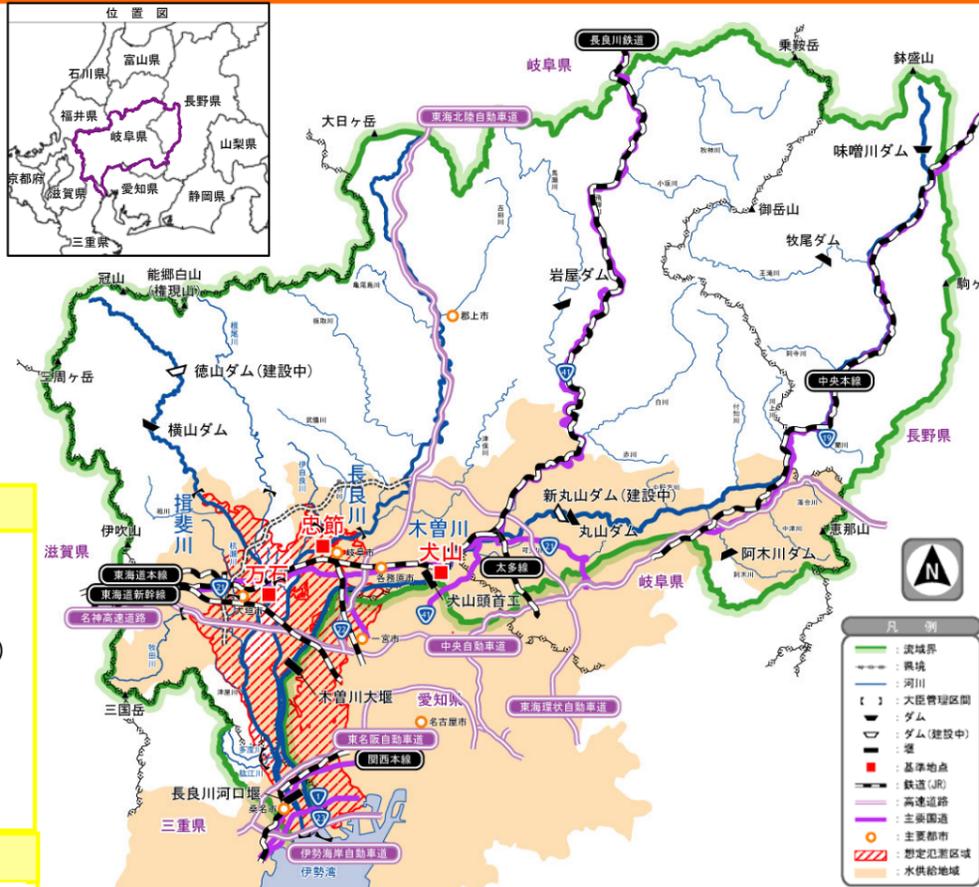
- 木曾川 : 対象降雨量 275mm/2日 (1/100)
基本高水ピーク流量 : 16,000m³/s (犬山)
計画高水流量 : 12,500m³/s (犬山)
- 長良川 : 対象降雨量 360mm/2日 (S35.8既往最大)
基本高水ピーク流量 : 8,000m³/s (忠節)
計画高水流量 : 7,500m³/s (忠節)
- 揖斐川 : 対象降雨量 395mm/2日 (1/100)
基本高水ピーク流量 : 6,300m³/s (万石)
計画高水流量 : 3,900m³/s (万石)

地域・河川特性及び降水量

- 広域地盤沈下により河口部は我が国最大のゼロメートル地帯であり、災害ポテンシャルが高い地域
- 川底が周辺の土地よりも高い。天井川を呈している。
- 年降水量は約2,500mm



- 中京圏の産業・人口・資産が集積する濃尾平野を貫流する。河口部は、広域地盤沈下による我が国最大のゼロメートル地帯であり、洪水及び地震による災害ポテンシャルが高い。近年も洪水被害が発生。
- 流域を越えた水供給により中部圏の経済・物づくりを支えている。平成6年には深刻な渇水が発生。
- 伝統文化を育む豊かな自然、文化遺産、景勝地が多数存在し、さらに河川利用が盛ん。



治水対策

■ 既往洪水を安全に流下させるため ダム建設や河道掘削等を実施中

- 木曾川 : 新丸山ダム建設中 (平成28年度完成予定)
- 長良川 : 長良川河口堰完成 (平成7年度)
中流部河道掘削予定
- 揖斐川 : 徳山ダム建設中 (平成19年度完成予定)
中流部河道掘削中



主な洪水被害

■ 近年においても洪水被害が多数発生



近年の洪水被害

木曾川		
洪水名	実績流量 (m ³ /s) 犬山	被災家屋 (棟)
S58.9	14,100	4,588

長良川		
洪水名	実績流量 (m ³ /s) 忠節	被災家屋 (棟)
S51.9	6,400	59,355
H16.10	7,700	1,297

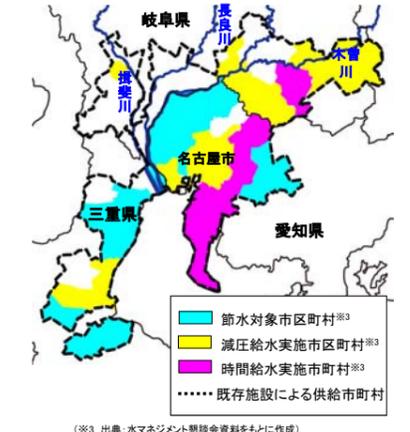
揖斐川		
洪水名	実績流量 (m ³ /s) 万石	被災家屋 (棟)
S50.8	4,200	215
H14.7	4,200	738

渇水被害

- 渇水被害が頻発
- 平成6年渇水には深刻な渇水が発生

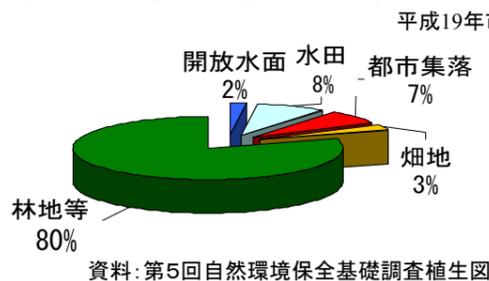
愛知の渇水工業被害303億円

愛知県は、平成6年(1994年)の渇水被害に際し、愛知県内の工業被害額は303億円に達した。これは、愛知県内の工業被害額としては、平成6年の渇水被害に匹敵する。愛知県内の工業被害額は、平成6年の渇水被害に匹敵する。愛知県内の工業被害額は、平成6年の渇水被害に匹敵する。



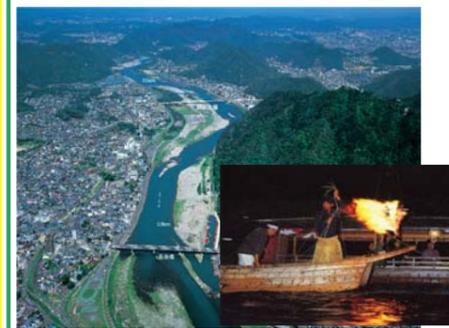
土地利用状況

■ 流域内人口及び資産は下流に集中している
主な市町村: 岐阜市(42万人)、一宮市(38万人)、大垣市(17万人)、桑名市(14万人)
平成19年市調べ



河川環境

■ 長良川中流域では、伝統文化を育む豊かな自然が存在



■ 木曾川下流域には、歴史的な治水事業による土木遺産、景勝地が多数存在



■ 木曾川中流から下流では河川空間の利用が盛ん



江の川水系

流域及び氾濫域の諸元

流域面積 3,900km² 幹川流路延長:194km
 流域内人口 :約21万人
 主な市町:江津市,三次市,安芸高田市
 想定氾濫区域面積 :約109km²
 想定氾濫区域内人口:約5万人
 想定氾濫区域内資産額:約8,600億円



- 広島・島根の2県にまたがる中国地方最大(流域面積、幹川流路延長)の河川
- 上流三次盆地を中心に資産が集中し、中下流の狭隘部に小集落が点在
河口部の沖積平野は河川規模に比し、小さい。
- 3つのほぼ同規模の流域面積を持つ川が三次盆地で合流、合流後の下流は山間狭窄部が続き洪水時には水位が急激に上昇 水害を受けやすい地形

工事実施基本計画

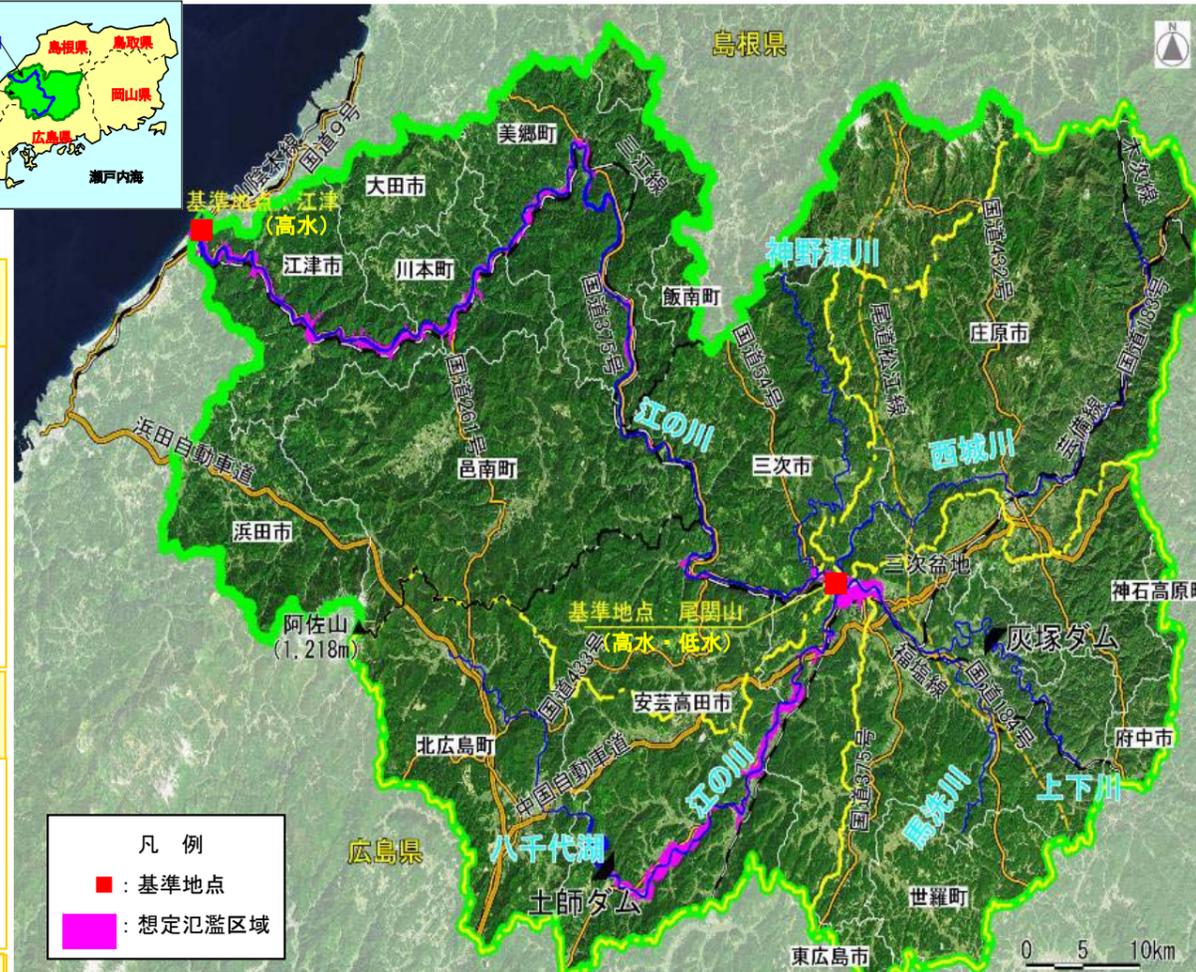
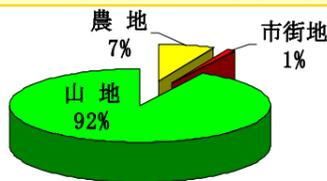
対象降雨量 尾関山地点 :306mm/2日(1/100)
 江津地点 :323mm/2日(1/100)
 基本高水のピーク流量 :10,200m³/s(尾関山地点)
 :14,200m³/s(江津地点)
 計画高水流量 :7,600m³/s(尾関山地点)
 :10,700m³/s(江津地点)

地域・河川特性及び降水量

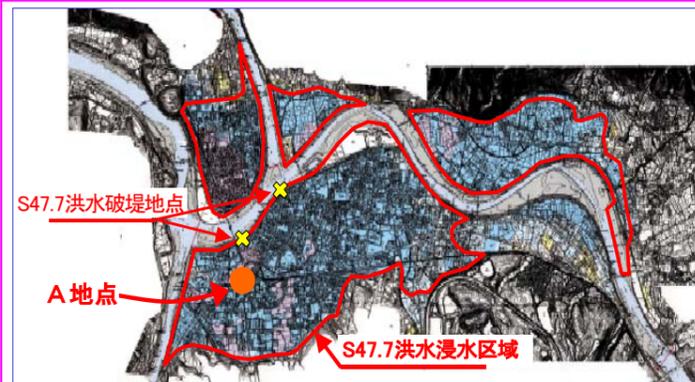
- 河口の狭小な沖積平野と、上流盆地に人口・資産が集中し、それをつなぐ中下流は山間狭窄部の河岸段丘に小集落が点在
- 年降水量は流域平均で1,750mm程度

土地利用状況

- 流域の90%以上が山地、農地が7%、市街地は1%
- 人口資産は上流三次市と河口江津市に集中



主な洪水被害

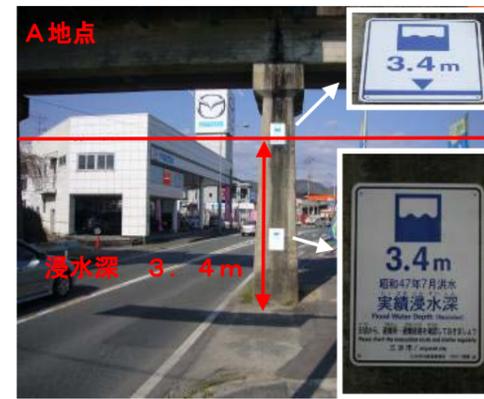


昭和47年7月洪水による三次市街地の浸水区域と浸水想定区域図

- 昭和47年7月洪水では、江の川水系全川にわたり甚大な被害が発生 [死者22名、全半壊3,625戸、浸水家屋約14,063戸(流域関係市町村分)]
- 貯留型の氾濫特性より、三次市街地では急激な水位上昇により全域が浸水



昭和47年7月洪水による破堤状況



昭和47年7月洪水による浸水実績

治水対策

- 甚大な被害が発生した昭和20年9月、昭和40年7月、昭和47年7月等の洪水を受け、上流三次市街地を中心に堤防整備を促進
土師ダム・灰塚ダムを整備により、全川にわたり治水安全度を向上



土師ダム(S49完成)



灰塚ダム(H18完成)

- 中下流部は、狭隘部の限られた平地を有効利用するため、全国に先駆け、水防災対策事業等を実施



三次市作木町港地区

河川環境の特徴

- イカルチドリが生息するレキ河原の再生
 - オキナグサ・カワラハハコが生息する河原草地の再生
- ◆ 砂州の切り下げ、中水敷盛土の整備等

江の川<吉田地区>
 河道や流況の安定に伴って河床の攪乱作用が低下
 江の川のレキ河原は、40~50年で激減
 約30年前から、河道内にヤナギ類による樹林化が進行したためレキ河原の再生に着手



イカルチドリ